

「やりたくない」と「興味がない」を、きちんと区別する。

「やりたくない」と「興味がない」。

どちらも日常でよく聞かれる言葉ですね。

響きが似ているためか、混在して使っている人も多いのではないのでしょうか。



しかし、意味はまったく違います。

同じような意味として考えていると、思わぬチャンスを逃していることがあるため、要注意です。

いま一度、意味を整理してみましょう。

「やりたくない」とは「嫌い」という認識がはっきりしていることです。

以前に経験があり、苦い思い出があったり、不愉快になることがわかっていたりするときに、使います。

たとえ経験がなくても、あらかじめ自分が不愉快になるだろうと予想できるときにも、使います。

やりたくないことは、嫌なのですから、やる必要はありません。

ただ不愉快になるだけです。

無理をしてやっても、余計に嫌いになるだけです。

しかし、興味がないことは、別です。

「興味がない」とは「面白いと思わない。心が引かれない」という意味です。

必ずしも「嫌い」という感情が伴っているわけではありません。

興味がないことは、やってみたほうがいいです。

興味がないのは、まだやったことがないせいかもしれません。

やったことがあるとしても、面白さに気づいていないだけかもしれません。

だから、やってみるのです。

興味がないことをやってみると、意外な面白さに気づいて、新しい世界が開ける可能性があります。

あなたが、それをしない理由は何ですか。

やりたくないければやらなくてもいいですが、興味がないなら、やってみる価値はあります。

興味がないことに、可能性が眠っているのです。

60代がしておきたいこと その6

興味がないことを、やってみる。